

才津さん(経営3)に学長賞

留学先で優秀な成績



佐々木学長(右)から学長賞が贈られた

留学先のオレゴン大学(米国)で優秀な成績を修め、成績優秀者名簿であるディーンズ・リスト(Dean's List)に選出されたとして、才津真稀恵さん(経営3)に学長賞が贈られた。

才津さんは2年次に長期交換留学生として留学。経営学部の3年次への進級要件を満たすため、秋チーム(9〜12月)、冬チーム(1〜3月)とも5科目20単位を履修。すべて単位を修得した。冬チームでは優秀な成績を得たとしてディーンズ・リストに掲載された。

学長賞は10月10日、生田キャンパスで授与された。佐々木重人学長は「留学生という立場でディーンズ・リストに載るには、相当努力したと思われる。今後も頑張ってください」と激励した。

才津さんは「学んだことを120%生かして、今後も頑張りたい。専大から留学したいという人が増えるように、できる限りお手伝いをしていきたい」と語った。

オレゴン大学に長期交換留学

才津 真稀恵さん

2023年6月から24年3月まで長期交換留学プログラムでオレゴン大学に留学した才津さんに、アメリカでの生活や、そこで得たものなどを聞いた。

将来、海外で働くことを見据え、1年間の長期留学に挑みました。英語は勉強してきたつもりでしたが、どこまで通用するのか、友達にはできるのか不安でした。

最初の3カ月はホームステイしながら語学学校に通いました。英語に慣れ、徐々に友達を増やして活動を広げていきました。

秋以降の正規授業では「学びたいことを学ぼう」と、経済学、経営学などのほか、言語学やプログラミングなど専門外の科目も履修しました。

授業は教員との対話が基本で、質問しやすい環境でした。そこで私も遠慮せずに、分からないことはなんでも聞き返すようにしました。私がノン



留学先のオレゴン大学で

視野広げ、一步踏み出す力得る

ネイティブだと分かっているのに、相手も対応してくれていました。

オレゴン大学ではチームごとに成績優秀者(12単位以上修得し、かつGPA3.75以上)がリストに掲載されます。冬チームで選ばれたときは「まさか自分が」と信じられませんでした。実は秋チームの成績があまり良くなくて、そこで奮起しました。授業や課題のスタイルに慣れ、効率よく勉強ができるようになったことも大きいと思います。

勉強ばかりでなく、アメリカでの大学生活も楽しめました。課外活動では、日本文化を紹介する学生機関にインターンとして参加。2週間に1度日本に関連するイベントを開くのですが、私は成人式をテーマにしたイベントを担当しました。アメリカで学んだ経営学を用いて、集客やプレゼンテーションなどを実践する良い機会になりました。

留学は、コミュニティを広げ、多くの人と関わるチャンスです。私自身、視野が広がり、将来のキャリアについても選択肢が増えました。同時に日本について語る機会が増え、日本の良さを再認識することもできました。語学力も鍛えられ、限られた時間で効率的に勉強するためのタスク化にも取り組みました。自分が一步踏み出せるための力を得られた、それが私の1年の留学の成果です。

千代田区キャンパス コンソ協力講座

金融リテラシー学ぶ

投資や貯蓄について、基礎から実践へとステップアップ方式で学ぶ「金融リテラシー講座」(全3回)の第1回初級編が10月5日、神田キャンパスで開かれた。

同講座は、本学を含む6大学2短大が加盟する「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム(千代田区キャンパスコンソ)」の協力講座。地域に対する教育支援活動の一環として、加盟大学の学生や一般の方を対象で、当日は中高生から大学生、社会人まで幅広い層が参加し、学びを深めた。

第1回のテーマは「みなさんの『ミライ』と『お金』」。講師を務めた三井住友信託銀行の北條佑宜さんは、使う前に貯蓄する「先取り貯蓄」の実践を勧めた。また、データを示しながら分散投資と長期投資の有効性を説明。後半では、お金のに関するトラブルの対策と注意を呼びかけた。

11月9日には、はじめての「資産形成」をテーマに第2回実践編を実施。第3回ステップアップ編は、12月7日に神田キャンパスで開講する。1回のみの受講も可能。申し込みはコチラ↓



中高生から社会人まで幅広い層が受講した第1回初級編

経済小西准教授が 若手研究者奨励賞

日本財政学会

小西准教授は財政学・フランス財政史が専門。1950〜60年代の仏欧の税制に関する一次資料を用いた精緻な歴史研究と活発な国際学術交流活動が評価された。

10月12、13日開催の日本財政学会第81回全国大会で授賞式が行われた。



小西准教授

就職だより

4年次生へ「進路決定者は「進路届」を就職支援システム「Sineet」もしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。」「in Campus」から「就職アンケート」の回答にも協力をお願いします。3年次生へ「オンライン就職セミナー」が11月11日から始まっています。業界をけん引するリーディングカンパニーや卒業生が活躍する企業などが参加し、秋・冬のインターンシップやオーブンカンパニーについて、前大統領の発信した「バイデンが大統領選挙の勝利を盗んだ」といった荒唐無稽なものを脇に置いて「PTAは教育委員会や学校の下部組織である」「自分らしさを失ってはいけない」というメッセージを届けています。詳細は「Sineet」で確認してください。



岡田憲治 著

本書は、政治、社会、日々の生活に当たり前のこととして浸透している大中小の「フェイク(偽り)」がわしき知識や認識を40個抽出した。トランプ前大統領の発信した「バイデンが大統領選挙の勝利を盗んだ」といった荒唐無稽なものを脇に置いて「PTAは教育委員会や学校の下部組織である」「自分らしさを失ってはいけない」というメッセージを届けています。詳細は「Sineet」で確認してください。

本書は、政治、社会、日々の生活に当たり前のこととして浸透している大中小の「フェイク(偽り)」がわしき知識や認識を40個抽出した。トランプ前大統領の発信した「バイデンが大統領選挙の勝利を盗んだ」といった荒唐無稽なものを脇に置いて「PTAは教育委員会や学校の下部組織である」「自分らしさを失ってはいけない」というメッセージを届けています。詳細は「Sineet」で確認してください。



道垣内弘人 著

社会科学において「所有権」が盛んに論じられるのは、戦後、農地改革や財閥解体があり、さらにマルクス主義の強い影響があった時代であった。ところが、現在でも書店に行けば、哲学等いろいろな分野で「所有」を問題とする書物が多く出版されていることがわかる。そこでの議論は、民法。著者(どうがうち・ひろこ) 法科大学院教授。著者(どうがうち・ひろこ) 法科大学院教授。

三曲研究会 第54回定期演奏会



箏、三味線、尺八の和楽器三種を演奏する三曲研究会(森岡末有代表・文3)が10月20日、川崎市高津市民館で54回目の定期演奏会を開いた。ホールでの定期演奏会は5年ぶり。約20人の部員は「都の春」や「八千代獅子」などの古典曲や「さんさんさくら」などの現代曲を織り交ぜ、全10曲を披露。約100人の聴衆が和楽器の雅な音色を楽しんだ。



まずは、自分ができるところから

メールに「。」をつけても「マルハラ」と言われるほど、何にでもハラスメントを付ける風潮になったと日々感じる。ハラスメントに対して敏感になった一方で、深刻なハラスメントを受けて泣き寝入りしている被害者はどのくらいいるのだろうか。おそらく、声をあげられる人はごく一部のだろう。

もしも、自分自身がハラスメントにあったとしたら、被害を訴えることができるだろうか。「被害がエスカレートするのではないか」「話が漏れて興味本位の噂が立つのではないか」「不利益な対応を受けるのではないか」「話をする過程で被害を思い出して辛くなりそう」等、マイナスな理由がいくつでも思い浮かび、心がくじけてしまいそうになる

が、被害に悩む人から話を聞くと、被害を訴えようと思った理由として、「同じような被害にあう人を無くしたいから」と言われることが多い。人は、自分のためよりも他人のための行動の方が、力が湧くかもしれない。他人を思いやり立ち上がることができる勇気ある姿勢には、リスペクトを感じる。

泣き寝入りをしないため、させないために、組織としては、解決までのルールが整備されていることを周知すること、個人としては、周囲に悲しい顔をしている仲間がいないか気にかけて寄り添うことが大事なのではないかと考える。まずは、自分ができるところからはじめていきたい。

(キャンパス・ハラスメント対策室員 佐々木恭子)

キャンパス・ハラスメント対策室 TEL: 044-900-7858 E-mail: camhara@acc.senshu-u.ac.jp